

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人長岡福祉協会	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護大島
所在地	(〒 940-2104) 長岡市大島町字谷内甲 1161		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

当事業所では、『介護が必要になった場合でも地域を離れることなく、自宅で暮らし続けていける』ことを理念としてサービスを提供しており、以下のような特徴があります。1 つめは看護小規模多機能型居宅介護であるため、医療ニーズのある方を中心に受け入れをさせていただいています。2 つめの特徴は平均要介護度の高さです。当事業所のご利用者の平均要介護度は現在 3.5 であり、比較的重度の方を受け入れさせていただいています。そのため職員一人ひとりの高い専門性が求められ、日々研修や勉強会を通して研鑽を積んでおり、本来の理念である「中重度要介護者を在宅で支えられる仕組みづくり」の実践に取り組んでいます。3 つめの特徴は、ご利用者の馴染みの暮らしを一番に考えている点です。元々馴染みがあって且つ、生活圏域から出ない範囲として、登録ご利用者のお住まいから約 2km 圏内で密着したサービスを行っております。事業所が近くにあることにより、ご利用者の急な状況変化やご家族の急な用事の際などに臨機応変にサービスを組み替えられ、柔軟な対応が可能になっています。ご利用者やご家族の生活を総合的にサポートするために、事業所だけでなく、地域や医療・行政など関係機関と連携・調整を行い、地域包括ケアの視点に立って取り組んでいます。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2015 年 11 月 19 日	従業者等自己評価 実施人数	(16) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2015 年 12 月 18 日	出席人数 (合計)	(9) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (2 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (3 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1			

	人) <input type="checkbox"/> 利用者 (<u> 0</u> 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (<u> 0</u> 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (<u> 1</u> 人) <input type="checkbox"/> その他 (<u> 1</u> 人)
--	---

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)			
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)		
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)		
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)		
III. 結果評価 (評価項目 42～44)			

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>項目 1 ①～④を実施すると⑤の地域包括ケアへの貢献とつながると考えるが抽象的なため、具体的にする必要もある。</p> <p>項目 3 全ての職員と面談し計画を策定しているが、経過や振り返りの場、計画の修正の機会が必要ではないか。</p> <p>項目 10 災害時の要支援者の把握、自宅の避難方法の明確化、地域の見守りや力が頼りになるので連携を取れるようにしたほうが良い。</p>	<p>項目 1 具体的な理念の作成 4月のミーティングで理念を決める 3か月毎ミーティングで実施内容と理念について評価・修正</p> <p>項目 3 具体的な研修計画・評価方法の作成 4月に職員個々が目標を立て、管理者と面談し目標を確定する 9月に各自の評価、管理者と再度面談し計画を評価・修正、3月に総合評価</p> <p>項目 10 各種マニュアルに基づいた研修の実施 毎月の研修担当者がマニュアルに基づき研修を開催する</p>
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<p>策定なし</p>
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>策定なし</p>
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)</p>	<p>項目 33 サポートセンターの役割と実施しているサービスについて知ってもらう。 2か月ごとに広報を作成し、センターの概要、行事、説明会の案内を配布する。作成にはボランティアの参加も促す。</p>

		といけない。	4～11月の間に説明会を3回実施する。行事に合わせ参加者の拡大を図る。 地域のケアマネージャーや病院関係者に説明し、運営推進会議への参加を促す。 また、地域の学校で介護教室を開催できるように伺いを立てていく。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)			策定なし

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			「独自の理念とは何か？」具体的に教えて欲しい。 理念は自宅での暮らし（介護）を支えます。 ①～④を実施すると⑤の地域包括ケアへの貢献とつながると考える。	✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] 独自の理念を掲げている。 抽象的なので具体的な理念に改善が必要。 事業所パンフレット内や玄関に掲示している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○			自己評価のコメントにある「協議」の中での理念への認識や意見の違いはどのようなものか。 全員がこぶし園の職員ではないため、認識はあるが立場により意識の差が出ている。 認識の差をなくすよう話し合いの場では意識付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○			すべての職員との面談が行われている。 立てた目標の振り返りの場はあるのか。 年度末に評価をするが、上半期下半期と途中で評価を設けようと考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			目標に基づいた研修計画が立てられ機会が確保されている。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 法人内外やこぶし園全体で経験年数や職員個々の目標に応じた研修計画に基づいて、研修を受ける機会を設けている。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	○				ミーティングだけでなく日常的な場面でも情報共有の機会がある。情報共有したことがケアプランに反映されているか。 その場に管理者、ケアマネ、介護、看護がいるので毎日がカンファレンスである。ご利用者の変化や可能性についてはその都度話し合い、改めてミーティングで検討している。	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 主にミーティングで機会を設けているが、日々の業務の中でも情報交換を密に行い共有することが出来ている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○			<p>助言や意見を聞くにとどまらず取り組みとして実践している。</p> <p>「よくできている」ではなく「おおよそできている」に○が付いた理由は、意見を頂くより、現状の報告が中心のため、おおよそと評価をした。</p>	<p>✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します</p>
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	○				<p>職員の要望を定期的に確認する場がある。</p> <p>精神的負担を軽減するための環境整備ができている。</p>	<p>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	○				<p>情報の随時更新ができており必要な場合の対応も行われている。</p> <p>事故報告書等はどのように扱うことですぐ確認できているのか。</p> <p>ICTは活用しているか。報告書は提出以外に控えを回覧で確認できるようにしている。</p> <p>ICTは訪問看護やヘルパーで使用している。</p>	<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <p>利用者の情報については、業務ノートや個別ケース記録など書面を活用して、日々の対応の中で気付いたことや変化を記録することにより職員間で迅速な情報の共有が出来ている。</p> <p>必要な場合は改善策を話し合い、新たな対応を試みている。事故報告書やヒヤリハットはすぐに確認出来ている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	○				「各種の事故」とは具体的にどのような事故か 怪我等の身体的な事故だけでなく、服薬ミス、訪問ミスが挙げられる。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		<p>[具体的な状況・取組内容] 各種の事故に対する予防・対策については定期的に研修の機会を設けて確認している。 実際におきた事故については月ごとに集計、分析、対策の確認を行なっている。 個人情報については法人の規定を使用して対応している。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○			利用者への働き（準備）共有とは 災害時の利用者への対応方法や避難の方法などは共有されているか。 センター内の避難方法は災害毎の計画があるが、利用者自宅の災害毎の避難方法は書面で用意していない。 災害時、要支援者の把握をしていた方が良い。地域の見守りや力が頼りになるので、連携を取れるようにしたほうが良い。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>防災訓練を定期的実施 利用者個々の緊急連絡先リストを作成して訪問時等に活用しているが、備蓄、医療材料、利用者への働き（準備）共有が今後の課題となっている</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	○				<p>利用者はもちろん家族の状況も含めたアセスメントができている。</p> <p>夜間帯の定期的訪問ができない。体制や制度が整っていない。今後、定期巡回などと組んでいく必要がある。</p>	<p>✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</p> <p>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</p>
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○			<p>介護職と看護職の間で情報が共有されている。</p> <p>ミーティングはどれくらいの頻度で行われているか。</p> <p>ミーティングは月1回。情報共有は毎日必要に応じ行い、その場の当たり前になっている。</p> <p>連携が取れていると思うので</p>	<p>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	○				利用者、家族の意向を踏まえた計画作成が行われており状況に応じて見直しされている。	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
		[具体的な状況・取組内容] 家族も含め、希望や意向を相談の段階から把握して計画作成を行っている。また適宜アセスメントやカンファレンスを行い、日々の状態やニーズの変化に応じてその都度見直しを行っている。					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	○				利用者の有する能力を最大限に生かした「生活機能の維持又は向上」を目指した取り組みや環境整備等に配慮を図っている取り組みについて具体例を知りたい。毎日ご利用者ご家族に関わり、体を動かす機会や介護方法を助言し、機能回復、介護方法の習得が出来、介護量が激減したため毎日の必要がなくなり居宅サービスへ移行した。	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
		[具体的な状況・取組内容] これまでの生活スタイルの把握、残存能力をしっかりと理解した上で、見守りや一緒に行う事を心掛けている。自宅での生活を維持できるように、環境整備等に配慮を図っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	○				<p>予後予測をふまえた計画となっているか。</p> <p>情報の共有を行い計画に反映させている。</p>	<p>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</p>
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	○				<p>毎日のカンファレンスで早期の把握と計画への反映ができています。</p>	<p>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	○				通い、泊りに過度に偏らないサービス提供となっている	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	○				<p>関係多職種でミーティングをすることはあるか</p> <p>主治医、福祉用具、社会福祉協議会等の外部との連携を図っている。</p> <p>ご利用者のアンケートに連絡を密にきちんとしてくれていると評価があり共有されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	○				状況に応じて専門性を活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	○				連携の機会が確保されており情報共有や連携の実施が実際に行われている	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、 疾病予防・病状の予後予測・ 心身の機能の維持回復など の観点から、情報提供や提案 等を行っている	○				例えばどのような提案をしたのか、具体的に知りたい病状の可能性から、観察の視点を説明している。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	○				<p>利用者のサービスの理解度は事業者としてどのように感じるか。</p> <p>ご利用者やご家族の必要な支援の形が出来た時に理解を得られている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	○				利用者や家族の介護計画の理解度は事業所としてどのよう感じるか。 最初は中々できないが利用していくうちに実感し少しずつ理解を得られている。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<p>【具体的な状況・取組内容】 ご本人やご家族の身体状況・精神状態等の変化を把握し、要望等も踏まえながら課題を明確化し、現状に即した介護計画を作成、説明している。</p>					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	○				状況に合わせた対応・説明を行い理解を得ている	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<p>【具体的な状況・取組内容】 必要な状況に合わせて支援の頻度を調整し提供している。その都度必要な説明を行い理解を得ている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	○				<p>重度化した場合に備えて事前に意向を把握できている。日々のコミュニケーションの中でも意向や希望を把握できているのか。ご本人やご家族から相談もあり、その状況の可能性がある際は、説明し確認している。</p>	<p>✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します</p>
		<p>【具体的な状況・取組内容】 利用前に事前訪問を行う中で状況の把握に努めると共に、ご本人、ご家族等の不安や要望等に耳を傾けている。重症化した方に対しては予めご本人やご家族の意向を把握し計画に反映している。</p>					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	○				<p>相談や共有ができている。</p>	<p>✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します</p>
		<p>【具体的な状況・取組内容】 状況に合わせた利用方法や入院入所の検討について相談に応じ、必要な段取りの説明を行なっている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している					<p>終末期ケアの症例がないのはなぜか。理由を記載することも良いのではないか。</p> <p>「泊まり」を利用すれば看取りができるのでは。</p> <p>在宅での終末期・自宅では望まず入院を選ぶご家族も多いが、数日前や直前まで支援を調整実施している。自宅で見取った事もあるが、急変のため視点の内容を全て実施しておらず症例なしとした。</p> <p>泊まりで見取りは出来るが症例なし。</p>	<p>✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</p>
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	○				<p>利用者の円滑な在宅生活への移行の支援への取り組みが行われている。</p>	<p>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○			<p>家族を含めた会議ができている</p> <p>「すべての利用者にはできていない」とあるが優先順位を付けて行っているのか、必要と思われる利用者のみ行っているのか、今後全員に対して行う予定なのか。</p> <p>必要な方は緊急時の対応を明確にしているが、落ち着いている方もおり、現在登録されている方全てが対象にならない。項目はすべてと記載があるためおおよその評価とした。</p>	<p>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</p> <p>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	○				<p>全ての利用者に対して「即座な対応が可能な体制の構築」ができています。</p> <p>[具体的な状況・取組内容] 全ての方に対しご家族の緊急連絡先、主治医と緊急病院、既往歴や処方内容などをケースに記載している。又、訪問時には、同内容をファイルにした緊急連絡表を持参し、緊急時にスムーズに連携が図れるようにし活用している。</p>	<p>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</p>
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	○				<p>発言を発信しやすい雰囲気での会議が行われている。</p> <p>利用者や家族の意向はアンケートで把握している。</p> <p>[具体的な状況・取組内容] 利用状況について報告を毎回実施している。その中でインフォーマルを含めた利用方法について具体的に説明を実施している。その中でアドバイスを頂いている。</p>	<p>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</p> <p>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</p> <p>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およ そ でき てい る	あま り で き て い ない	全 く で き て い ない		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	○				誰でも見れる場所に掲示されている。 「玄関に提示されている」ということを全職員が知っているのか（他の事業所で「どこに掲示しているかわからない職員もいた」という自己評価があったため参考に）会議の時に前回の会議などの意見などを記録したものを配布もあったら良い。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		○			<p>現在も事業所内に限らない地域や外部へ向けた取り組みが行われているのでこれからも継続して欲しい</p> <p>小・中学校でも説明会を実施すると家族の中で話題になるので良いのではないかと。寸劇風にするとわかりやすいとの声がある</p> <p>地域の住民もサービスの理解をしないといけない</p>	<p>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</p> <p>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</p> <p>✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます</p>
		<p>【具体的な状況・取組内容】</p> <p>利用者のみならず、地域の人々の相談にも対応しており、アドバイスや紹介を適宜行っている。実習生や見学を積極的に受け入れ、事業所内外での地域に向けた説明会を通じ情報を提供しているが、今以上に地域に出る機会を増やしていくことが課題。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよ そ でき て い る	あまり で き て い な い	全 く で き て い な い		
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	○				登録者以外の訪問看護を積極的に実施している	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 積極的に受け入れて実施している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	○				受入の体制が十分に整っている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○	<p>これまでに「人工呼吸器」を必要とする可能性がある利用者がいたり、相談があったことは？</p> <p>この項目についての今後の方向性は？</p> <p>相談があれば検討して行くが、現在は相談がない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている		○			どのような受け入れ体制か。 看護小規模多機能型の機能そ のものが体制である。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が 介護保険事業計画等で掲げ ている、地域包括ケアシステ ムの構築方針や計画の内容 等について理解している			○		地域包括ケアシステムの構 築方針や計画の内容がまだ 十分でない。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その 充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあ たっては、その中で各々が果たす べき役割を、明確に理解すること が必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針 や計画などが無い場合は、「全くで きていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○				特定の集合住宅に限定せず積極的に地域へのサービス展開ができています。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている			○		ネットワーク作りの機会がある。 介護・看護のサービス提供を通じて得た情報や知見から地域における課題や改善策の提案を期待する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○			<p>「家族や地域を含め共に本人を支えていく関係を築いている」のなかで「地域」の部分についての取り組みがあれば具体的に聞いてみたい。</p> <p>ご本人の行きつけの商店等の見守りや連絡体制を作っている。</p> <p>新規ケースの際に積極的な姿勢で関わりを取ってくれている。利用が決まってもサービスの説明に取り組んでもらえている。</p> <p>こういった働きかけで運営推進会議への参加をお願いできるとさらに地域密着になると思われれます。会議へ参加していただける人を集めることが今後の課題と思われれます。</p>	<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>

[具体的な状況・取組内容]
 送迎や訪問時にご家族の思いを聞く機会を設け、ご本人とご家族やご近所の絆が断ち切れないよう、家族や地域を含め、共に本人を支えていく関係を築いている。援助の際に一緒に行い介護力の向上を図っている。

まずは説明会や介護教室等を実施し、事業所を知ってもらうことから地域とのつながりを深めていく必要がある。

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 自宅での生活を続けている。関わる事で状態や介護環境の改善があり援助量が減った。	1 / 3の利用者については計画目標の進捗状況等ほどのような状況であるか。大体は出来ているが、達成まではいかない。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>24時間の相談や駆けつける体制があり、理解を得られている為、安心が図れている。</p>	満足度調査からも「困りごとを相談しやすい」と答えた方がほとんどで、その他の項目や意見を見ても安心感が得られているように思える 訪看のリハビリの希望あり通いでも訪問でも提供できている。透析の方も通い・泊りから透析に行くことができ酸素の方も泊まり可。別の居宅サービスでは受け入れ施設が少ない。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価コメント記入欄	評価の視点・評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>自宅で看取るまでは至らなかったが、亡くなられる直前まで随時の対応を実施できた。24時間の相談や駆けつける体制があり、実施した為安心が図れている。</p>	<p>自己評価の「実施した為」の内容をもう少し具体的に教えて欲しい。</p> <p>毎日支援を受けれること、定期以外でも状況に合わせて質や回数を調整できること、24時間体制であることが安心につながった。</p>	<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>